助産師教育

NEWS LETTER

公益社団法人
全国助産師教育協議会
Japan Society of Midwifery Education

No.83 2014. 9.25

『学生によるオレンジリボン運動』

四国大学看護学部看護学科　高　橋　順　子

社会貢献委員会の新規事業として実施した「学生によるオレンジリボン運動」についてお話します。

まず、『学生によるオレンジリボン運動』事業が開始される背景について、経過を整理してみました。

皆様も御存じのように、1989年の合計特殊出生率『1.57ショック』が母子行政の重要課題となり、子育て家庭支援対策･少子化問題対策の審議が盛んになりました。1990年に「健やかに子どもを産み育てる環境づくりに関する関係省庁連絡会議」が設置され､1991年には「出生の動向を踏まえた対策」が出ました。

1992年には「ウエルカムベビーキャンペーン」が行われ、1993年「たくましい子供・明るい家庭・活力と優しさに満ちた地域社会を目指す21プラン研究会報告書」、1994年にはエンゼルプラン『今後の子育て支援のための施策の基本的方向について』、1999年『少子化対策推進基本方針』、新エンゼルプラン『重点的に推進すべき少子化対策の具体的な実施計画』、少子化対策推進プランが策定されました。施策の効果は乏しく、逆に児童虐待に関する事件が社会問題となりました。

記憶に残る事件では、1988年発覚した『巣鴨子ども置き去り事件』父親が蒸発後、母親も4人の子どもを置いて家を出ていき、育児放棄状態に置いたとして保護者遺棄、同致傷の罪で実刑判決。これは、是枝裕和監督が15年の構想の末、満を持して映像化した作品「誰も知らない」で有名となりました。

尼崎児童虐待死事件（2001年）は、両親は外出の際、虐待の発覚を恐れて長男の口に粘着テープを貼り､紐で身体を縛って動けなくした。養父が逃げ出そうとする長男の頭に回し蹴りをして止めをさし、長男は脳内出血で死亡。両親は遺体をゴミ袋に入れて運河に投げ捨て逃走しましたが逮捕され、傷害致死罪、死体遺棄罪で起訴され実刑判決が確定しました。

このような社会情勢を踏まえ、2000年に児童虐待防止法（児童虐待防止の防止等に関する法律）が制定され、児童虐待の定義、国民に対しては児童虐待発見者の通知義務が明記されました。2004年は児童虐待防止法･児童福祉法の改正（児童虐待の定義の拡大、通告義務の拡大、市町村の虐待対応策の役割強化）、2007年児童虐待防止法･児童福祉法の改正（児童の安全確認のための強制的な立ち入り調査、保護者に対する児童の面会制限など行政の役割強化）、2008年児童福祉法の改正で生後4カ月までの乳幼児のいる家庭すべてを訪問する事業等市町村が行う子育て支援の強化、里親制度の拡充などサービス内容は拡大しました。

しかし、児童虐待の増加は止まらず児童相談所に寄せられた相談件数は1990年度には1,101件だったものが2010年度には55,152件50倍と増加の一途をたどっています。このような背景を踏まえ、厚生労働省は、これから親になる若者への児童虐待予防の啓蒙活動として、学生によるオレンジリボン活動事業を2012年に開始しました。

2013年には、近い将来、母子の医療の現場で働く助産師学生が正しい知識を持って､活動に役立てることを期待した、厚生労働省雇用均等・児童家庭局：総務部虐待防止対策室から全助協に依頼が来ました。会員校9校が実施申請を行いました。9校の取り組みは厚生労働省のホームページに掲載されています。

ここでは、四国大学の取り組みを紹介します。本学では、4年生の総合実習で助産学生及び2年生の課題探究ゼミナールにおいて実施しました。8月にオレンジリボン運動のメインテーマを『命の継承、命のバトンタッチ』と決めました。学生個々の基礎知識習得のため、文献による児童虐待の学習会を開き、事業の対象となる中学生や大学生、若い親の特徴の把握とそれぞれへのメッセージについて討議しました。

活動1「赤ちゃん授業」育児支援NPOの学生ボランティアとして参加しました。内容：4～5名の中学生が乳幼児（0歳児から3歳）と母親をかこみ、助産師学生と助産師1名が1グループとなり、中学生が上手に赤ちゃんと触れ合えるように声掛け、抱き方を指導、乳幼児の反応や母親の会話から人が成長する事を実感し、自己の成長過程や命の継承について考えられるように支援しました。

その結果、第1段階の人形による模擬体験では、恥じらいもあり、一部の生徒は、わざと人形を雑に扱っていました。第2段階のふれあい体験では、壊れ物に触るように乳幼児にさわり、1時間後には「かわいい」と笑顔になっていく変化をとらえることができ、助産学生として充実感を感じる事業となりました。

活動2「大学祭」ポスター・パネルの展示、（児童虐待の定義､現状の説明､児童虐待の認識調査）142名の対象に説明。対象の反応は「虐待が増え続けている現状にショックを受けた」「加害者に母親が一番多いと知り、びっくりしてショックだった」「虐待は絶対にだめです」「自分が母親になった時は子どもにちゃんと愛情を注いで育てたい」など、親と子の関係や命の継承について、主催した学生・参加した対象共に考える機会になりました。

扉 …… 1
ニュース …… 2
トピック …… 5
わかばの部屋 …… 8
理事会報告 …… 9
第40回全国助産師教育協議会研修会 …… 10

平成 26 年度　定時社員総会報告

庶務・総務担当理事　村　上　明　美

猛暑日が続いておりますが、会員の皆様は体調など崩されておりませんか。暑い日はまだまだ続きますので、どうぞ御身体をご自愛くださいますよう。

さて、平成 26 年 6 月 20 日（金）・21 日（土）に、第 5 回（通算 50 回）定時社員総会が開催されました。本年度は創立 50 周年という記念すべき年に当たり、総会日程に合わせて、創立 50 周年記念式典・祝賀会も開催されました。総会 1 日目（6 月 20 日）は、記念式典・祝賀会会場（横浜みなとみらい）への移動を考慮して横浜市情報文化センター情文ホールにて、総会 2 日目（6 月 21 日）は、神奈川県立保健福祉大学にて行われました。本紙面にて、定時社員総会の概要を報告いたします。

総会には、正会員 136 校、総正会員数 272 名のうち 263 名の出席（本人出席 162 名、書面出席 101 名）がありました。

冒頭の会長挨拶では、島田啓子会長より、全国助産師教育協議会創立 50 周年を機にこれまでの助産師教育や本協議会の歴史を振り返るとともに、昨今の社会情勢を鑑みて、助産師に対する社会的期待の高まりから本協議会として「助産師教育の将来ビジョン」を明確に示していくことの必要性が示されました。

総会議長には米山万里枝氏と渡邊浩子氏が選出され、議事録署名人に鈴木千秋氏と藤井宏子氏が推薦され承認されました。議長より、定時社員総会は法定数を満たしており、総会の決議は定款第 30 条の規定により有効である旨が宣言され、議案の審議に入りました。

まず、各委員会担当の理事より平成 25 年度委員会活動が報告され、続いて志村千鶴子中部地区長（安達久美子地区長総括代理）より平成 25 年度地区活動が報告されました。これら平成 25 年度事業報告は過半数を持って承認されました。

次に、井村真澄会計担当理事より平成 25 年度収支決算の報告があり、熊澤美奈好監事より監査報告がありました。平成 25 年度収支決算及び監査報告は過半数をもって承認されました。

続いて、村上明美庶務・総務担当理事より平成 26 年度事業計画の報告があり、井村真澄会計担当理事より平成 26 年度収支予算が報告および説明がありました。

これをもって総会 1 日目を終了し、参加者は速やかに創立50周年式典･祝賀会の会場に移動しました。式典・祝賀会は、厳かな空気の中で和やかに挙行されました。

総会 2 日目は、午前は助産師教育に特化した 3 つのテーマで、本協議会理事による講演が開催されました。1 番目の講演は、我部山キヨ子理事（京都大学大学院）による「助産師教員のキャリアラダー」について、2 番目の講演は、大石時子理事（東京医療保健大学大学院）による「ICM 助産師教育のためのモデルカリキュラム」について、3 番目の講演は、島田啓子会長（金沢大学大学院）による「助産師教育の将来ビジョン」についてでした。

昼食時の地区別の打ち合わせでは、地区長の選出や地区活動について検討されました。特に、本年度は将来構想委員会より「助産師教育の将来ビジョン」をそれぞれの会員が深く考える機会として、各地区において助産師教育コロキアム「将来の助産師教育を考える」を開催してほしいという企画が提案されました。そのことも踏まえ、本年度の地区活動をどのように展開していくかについて話し合われました。

全体報告会では、地区別打ち合わせとテーマ別検討会で討議された内容が報告されました。本年度の地区長は、北海道・東北地区：園生陽子氏（天使大学大学院）、関東甲信越地区：坂口けさみ氏（信州大学）、東京地区：小川久貴子氏（東京女子医科大学大学院）、中部地区：唐沢泉氏（岐阜医療科学大学助産学専攻科）、近畿地区：秋田浩子氏（ベルランド看護助産専門学校）、中国・四国地区：白井喜代子氏（岡山大学大学院）、九州・沖縄地区：坂井邦子氏（九州看護福祉大学）が選出されました。

最後に、本年度の全国助産師教育協議会研修会の担当は近畿地区になったことが報告され、平成 27 年 2 月 28 日（土）・3 月 1 日（日）に大阪府にて開催される予定であることのお知らせがありました。

なお、本年度は役員改選の年となります。総会以降、選挙管理委員会を立ち上げて役員改選に向けて動き始めます。会員の皆様には本協議会のさらなる発展に向けて、公益事業活動に引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（庶務・総務担当理事　村上明美）

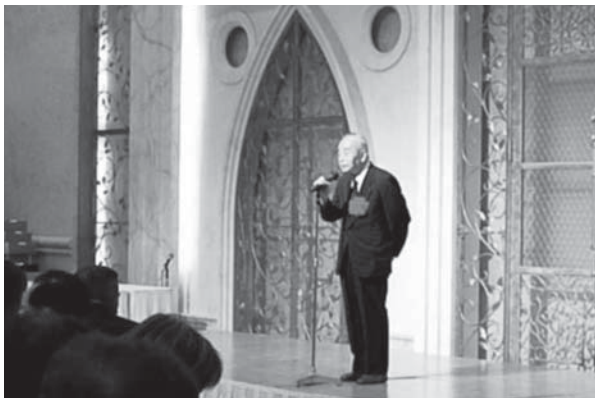
公益社団法人　全国助産師教育協議会
設立50周年記念式典並びに祝賀会報告

創立50周年記念事業特別委員会委員
神戸市立看護大学助産学専攻科　高　田　昌　代

平成26年6月20日、横浜コンチネンタルホテルにおいて、本会の創立50周年記念式典・祝賀会が131名の方々のご出席にて盛会に執り行われました。文部科学省、厚生労働省をはじめ、本会と関連ある日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会の皆様、そして、これまで本会に多大なご尽力をいただいた、鈴木雅洲先生、竹村喬先生を始め、青野敏博先生、近藤潤子先生、青木康子先生、川越厚先生、竹内美恵子先生、平澤美恵子先生、小木曽みよ子先生、岡本喜代子先生のご臨席を賜りました。この日を迎えることができましたのは、これまで本会の運営にご尽力いただいた先生方、省庁の皆様、そして会員校の皆様のお蔭と感謝致しております。

式典では、本会会長の島田啓子が本会の50年間を社会の動きと共に振り返る挨拶を行い、続いて各省庁の方からお祝いのお言葉を頂きました。

式典に引き続き行われた祝賀会では、これまで役職の労をおとりくださった方々に、会長からおひとりおひとりにクリスタルの盾に気持ちを託して感謝の意をお伝えいたしました。その後、鈴木先生や竹村先生から全助協の組織強化のために法人格取得のために関係省庁を日参された苦労話をお聞かせ頂き、その当時の先生方の本会に対する熱い思いを感じる機会になりました。青野先生には講演会が数百万円の黒字で、本会の資金調達に役立ったお話と同時にその何にでも一心になさる先生のお人柄にも触れることができました。近藤先生、青木先生からは50年間の助産師教育の変遷とともに、今後の助産師教育を考える必要がある、全助協としての将来構想を持つようにと奮起を促されました。川越先生からは臨床現場において他職種と比較して助産師教育で培われる能力の高さを改めて感じていることを



お話しいただきました。和やかな雰囲気のなか、先生方のお元気なお姿とこれまでご尽力されてきた思い出話をいただき、今この会を担っている私たちとして、半世紀続いてきた本会の社会的役割の重みを感じるとともに、今後への繋げることの責任を強く感じる時間となりました。この会に寄せていただきました、来賓の方々からのお言葉は、現在作成中の50周年記念誌に掲載する予定にしています。

また、出席者全員で記念写真を撮影いたしました。これまで、本会を支えてくださった方々が、一同に会しての写真となり、50年間の繋がりが凝縮された1枚となりました。

最後は、本会副会長の村上明美より多数の先生方からの心温まるお言葉とここに集うことができたことへの感謝について感極まりつつの挨拶があり、参加者の方々のご健康とご多幸、そして本会の一層の発展を祈念して、会場全員で一本締めでお開きとなりました。

テーマ：第30回ICMプラハ大会を終えて

福岡県立大学看護学部　女性看護学 / 助産学　**安河内　静　子**

第30回ICM（国際助産師連盟）大会が2014年6月1日～5日にチェコ共和国のプラハで開催されました。大会テーマは、「世界中で女性の健康を向上しよう」でした。

ICM日本大会が行われた1990年は、助産師として勤務を始めて2年目だったこともあり、世界に目を向けるような余裕もなく自分にはずっと縁のないものだと思っていましたが、時を経て大学で勤務するようになった私にも、そのチャンスがやってきました。

今回の大会は126か国、3800人を超える参加者であったと聞いています。6月1日のオープニングセレモニーでは、目に鮮やかな民族衣装をまとったそれぞれの国の代表助産師たちが国旗とともに堂々と入場し、国名が呼ばれる度に会場のあちらこちらから大歓声が聞こえてきました。“これが国際大会”と実感した瞬間でした。

私たちは3日にポスター発表をしました。登録演題中（189件）、日本の演題が最も多かった（131件）ことに驚きましたが、ランチタイムの和やかな雰囲気ということもあり、参加者同士で一緒に写真を撮るなど、自由に交流を深めることができました。

日本でも馴染みの深いヨガ（英国主催）や、指圧（チェコ共和国主催）、ヒーリング（米国主催）のワークショップにも参加しましたが、どの会場もいっぱいでした。陣痛の波に合わせ、産婦と一体となったリズムで指圧するチェコの助産師の姿を通し、産婦と助産師が呼吸を合わせるとお互いが心地良いケアにつながるという原点に返り、ヒーリングでは50代のオーストラリア人とペアになりましたが、彼女自身の強いエネルギーを感じました。また、どの会場も語学力のない私でも居心地が良かったのは、助産師しかいないという一体感であったのではないかと思います。

プログラムは多彩であり、ICMやICMパートナーである世界保健機構（WHO）、国際産婦人科連盟（FIGO）、Family Care International（FCI）など、国際組織団体が主催するシンポジウムやワークショップも数多く、それら団体の存在を改めて肌で感じることができました。また、女性の健康を向上していくには様々な組織と協働する意義や、助産師として何が求められているかというグローバルな視点を持ち続けることが大切であると実感しました。

大会冊子を片手に、あっという間の5日間でした。中世にタイムスリップしたようなプラハの街並みにも癒され、貴重な経験をさせて頂いたと思います。大会の様子はICMのホームページに多くの写真と共に掲載されています。お時間のある方はどうぞご覧ください。

（大会冊子を持参しているのが筆者）

Will（ウィル）は、助産師を目指す学生さんの思わぬ傷害・賠償・実習中の感染事故に対応できる補償制度です。

Willのタイプ	年間掛金(一時払)	傷害保険補償範囲	賠償責任（Will 1～3DXまで共通）	感染事故
Will 1	3,000円	実習中のケガ	・患者さんの移乗中、支えきれず転倒させてしまった。 ・スキー場で、誤って他人にケガをさせてしまった。 ・学校から借りた実習衣を汚損してしまった。 ・実習先から借りていた看護師寮のカギを失くしてしまった。 など	■実習中の感染事故に対する補償（傷害を伴うか否かを問わない） 検査・予防措置費用、治療費・入院費（損害保険＋共済制度で対応） ※共済制度では、感染事故対応のほか各種見舞金制度を備えています。
Will 2	4,500円	実習先＋学校管理下でのケガ		
Will 3	7,000円	プライベートの時間を含む24時間のケガ		
Will 3 DX	9,000円	※3・3DXの違いは、補償金額の違いです。		

このご案内はWill（普通傷害保険および学生・生徒総合保険）の概要をご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明」をよくお読みください。ご不明な点などがある場合には、代理店までお問い合わせください。
年間掛金の内180円は共済制度運営費です。

制度運営：一般社団法人日本看護学校協議会共済会
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
（担当課）医療・福祉法人部 法人第一課
〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 ラ・メール三番町9階　TEL：03-3515-4143

資料請求・お問い合わせ先
取扱代理店
株式会社メディクプランニングオフィス
〒104-0033 東京都中央区新川2-22-6 SJIビル2F

0120-863755
携帯・PHS OK　9:00～17:00（土・日・祝日・年末年始を除く）
E-mail　kango-will@nifty.com

13-T-11913（平成26年3月作成）

「助産業務ガイドライン改定の経緯について」

（助産業務ガイドライン改定特別委員会委員）
首都大学東京助産学専攻科　**安　達　久美子**

平成16年に、助産所における安全で快適な妊娠・出産に関する厚生労働省科学研究班（主任研究者：青野敏博）の研究成果をきっかけとして、初版である『助産所業務ガイドラン』が刊行されました。そして周産期を取り巻く環境の変化に対応していくために、5年毎の見直し改定を行うことになり、平成21年に第1回の改定が行われました。

今回の第2回改定においては、院内助産や開業助産師によるオープンシステムなどの広がりや、助産師が行う助産ケアは働く場所は異なっていても基本的なところは同じであるという考え方のもと「助産業務ガイドライン」として検討していくことになりました。改訂にあたっては、まず、前回と同様に、全国の助産所、連携医療施設を対象に、アンケート調査を実施し、平成21年版のガイドラインに関する意見収集を行いました。その結果、助産所195件、医療施設155件から回答をいただきました。

助産所における分娩の適応リストについて『**B. 産婦人科医と相談の上、協働管理すべき対象者**』の［産科的既往のある妊婦　妊娠中発症を認めないもの］については、助産所の84.1％、医療施設の67.7％が適切であるという意見でした。一方で、助産所からは、「これだけの既往症があれば病院分娩が良いと思います」、「妊娠初期の流産の既往は必要でない」、「前回の分娩時吸引または鉗子分娩については、介入の適応が適切なものだったか分娩の進行状況等総合的に判断しすべてをBのカテゴリーに含むことに反対」などの意見がありました。また、連携医療施設からは、「妊娠高血圧症候群は外すべき、病院での分娩が望ましい」などの意見がありました。［異常妊娠経過が予測される妊婦　妊娠中に発症した異常］については、助産所の80.5％、医療施設の65.2％が適切とし、改善すべきは、助産所12.8％、医療施設27.7％でした。『**C 産婦人科医が管理すべき対象者**』の［合併症のある妊婦、またその既往のある妊婦］では、助産所72.8％、医療施設89.0％が適切であるとしていました。また、GBSについては、助産所、医療機関ともに、B（医師と助産師との協働管理）と、C（産婦人科医師管理）の両方の意見がありました。これらを含めた調査の結果を踏まえつつ、ガイドライン改定特別委員会のメンバー（助産師・産科医師・新生児科医師）でディスカッションを重ね、改定ガイドラン案を作成しました。ガイドライン案は、東京・大阪での公開フォーラムや、ホームページで提示し、広く意見を聴取し、再度、ガイドライン委員会で検討するというプロセスを経て、「助産業務ガイドライン2014」として完成しました。

今回の改定のポイントは、前述のように助産所だけでなく、院内助産における活用について、明記した点にあります。但し、院内助産での管理適応リストとして用いる場合には、施設管理者あるいは産婦人科医師との協議の上、各施設の実情に応じた変更を行っていくこととしています。

妊婦管理適応リストでは、妊婦の安全性の確保とチーム医療の観点から、連携する医師と協働していくことを前提としており、「助産師が分娩可能と判断したもの」から「助産師、産婦人科医師双方が助産所または院内助産で分娩可能と判断したもの」としました。今回の改定では、GBS、性器クラミジア感染の取り扱いについては、議論を重ねた結果、これまでのCからBへと変更しました。

正常分娩急変時のガイドラインでは、助産所では「緊急に搬送すべき母体（新生児）の状況」であり、院内助産では「医師に相談すべき母体（新生児）の状況」として掲載しました。また、正常を逸脱した状況における観察と判断の視点について、搬送までの対応の例について記載しました。加えて、正常からの逸脱を引き起こしていると考えられる疾患についても示し、多角的な視点から状況を判断できるようにしました。特に、新生児に関しては、搬送や医師への相談をすべき状況について、観察、判断の基準をより具体的に示しました（表）。

さらに、助産師が業務を安全に行う上で重要な項目を日本医療機能評価機構・産科医療補償制度再発防止委員会の提言等を参考に「医療安全上留意すべき事項」として記述しました。1）助産師と記録、2）妊娠期の定期健康診査、3）医師・助産師・妊産婦の連携、4）常位胎盤早期剥離の保健指導、5）骨盤位の外回転術、6）分娩期の胎児心拍数聴取、7）人工破膜、8）新生児蘇生、9）早期母子接触（early skin to skin contact）、10）新生児のビタミンK投与、11）胆道閉鎖症早期発見のための母子健康手帳便色カードの活用、12）GBS陽性、未検査妊婦から出生した児について、について記載しています。

ガイドラインは、日本助産師会のHPから閲覧可能です。このガイドラインは妊産褥婦及び新生児の安全を守ると共に、助産師をも守るものです。助産師基礎教育においてもご活用いただければと思います。また、今年度は全国6か所（東京・大阪・福岡・岡山・金沢・宮城）で普及のための研修会が開催されますので是非ご参加ください。

表．正常分娩急変時のガイドライン　3．新生児期より抜粋

緊急に搬送すべき新生児の状況（助産所） 医師に相談すべき新生児の状況（院内助産）	観察と判断の視点	搬送までの対応の例	考えられる疾患等
■ LFD・HFD	○体重が2500g以上であっても在胎期間別出生体重標準曲線において10thパーセンタイル未満のLFD（light for dates）および90thパーセンタイル以上のHFD（Heavy for dates）に該当する場合がある	保温	低血糖
1）体温36℃以下（肛門体温）が持続し他の症状があるもの	出生直後に体重曲線でLFDやHFDに該当しないかを確認する	早期授乳	低体温
2）血糖値が50mg/dl未満	LFDおよびHFDの児については低体温および低血糖、高ビリルビン血症の発症リスクが高いためそれ以外の児と区別して注意深く観察を行う	その他は低体温、黄疸の項に準ずる	高ビリルビン血症
3）光線療法の適応基準に合致するもの	・観察内容 低血糖症状：易刺激性、振戦、無呼吸、活気不良など 低体温、黄疸（黄疸の項を参照）など ・観察方法 血糖チェックを生後30分以内に開始し、2回連続して血糖50mg/dl以上となるまで、30分毎に測定する 低体温、黄疸の項を参照のこと ・LFD、HFDに該当する場合は生後3日まで（72時間）は、低血糖、低体温、高ビリルビン血症が発症していないかを特に注意深く観察する	血糖値が低い場合は哺乳等で対応する。	

助産師基礎教育テキスト 2014年版

●多様化している助産師基礎教育のどのコースにおいても必要な、基礎的な知識と技術、態度を網羅しました。

B5判 2色刷

第1巻 助産概論
〔責任編集〕山本あい子　定価（本体3,400円＋税）
第2巻 女性の健康とケア
〔責任編集〕吉沢豊予子　定価（本体4,400円＋税）
第3巻 周産期における医療の質と安全
〔責任編集〕成田　伸　定価（本体3,400円＋税）
第4巻 妊娠期の診断とケア
〔責任編集〕森　恵美　定価（本体3,600円＋税）
第5巻 分娩期の診断とケア
〔責任編集〕町浦美智子　定価（本体3,600円＋税）
第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア
〔責任編集〕横尾京子　定価（本体3,600円＋税）
第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
〔責任編集〕遠藤俊子　定価（本体4,500円＋税）

新版 助産師業務要覧 第2版

Ⅰ 基礎編
福井トシ子 編
●B5判　332頁
定価（本体3,000円＋税）

Ⅱ 実践編
福井トシ子 編
●B5判　340頁
定価（本体3,000円＋税）

日本看護協会出版会
〒102-0084 東京都千代田区二番町4-3 二番町カシュービル3F
（営業部）TEL.03-6685-0340　FAX.03-6685-0341
【コールセンター（ご注文）TEL.0436-23-3271　FAX.0436-23-3272】
http://www.jnapc.co.jp

一般社団法人　日本助産学会
第 29 回学術集会開催のご案内

第 29 回日本助産学会学術集会会長
上智大学総合人間科学部看護学科　**島　田　真理恵**

第 29 回日本助産学会学術集会（in 東京）につきまして、一言ご挨拶申し上げます。

国民運動計画である「健やか親子 21」の次期計画によって、今後母子保健施策は、新たな展開がなされていきます。また、助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）の認証など助産師職能団体も大きく動いております。そして、助産師の研究もこのような社会の動きに呼応して行われていくことが、今後益々求められていくと考えられます。

そこで本学術集会では、助産を取り巻く最新事情と検討すべき課題について、参加者の皆様と共有し、意見交換できること、そして、それが今後の研究や実践の変革に繋がることを願い、盛りだくさんのプログラムをご用意しました。詳しくは学会ホームページをご覧下さい（http://web.apollon.nta.co.jp/jam2015/）。

先生方におかれましては、学生の方々とともに是非、ご参加を御願いしたいと存じます。企画委員、実行委員一同、皆様とお会いできることを楽しみにしております。

学術集会メインテーマ
　社会をうごかす助産のちから
　　～女性・母子と家族への切れ目ない支援を実現するために～
学会会期
　プレコングレス　2015 年 3 月 27 日（金）
　大　会　　2015 年 3 月 28 日（土）・29 日（日）
会　場
　品川区総合区民会館きゅりあん（東京都品川区）

Willnext（ウィルネクスト）は助産師さんの医療現場からプライベートまでの（もしも）if をサポートします！

業務中の「もしも」には・・・
＜助産師さんの賠償責任保険＞
－看護職賠償責任保険－
たとえば・・・
▶看護業務中に生まれたばかりの女児に火傷を負わせてしまい、妊産婦から訴えられた。
▶看護業務中に患者さんからお預かりしたメガネを壊してしまった。
▶看護業務中に病院の医療機器を壊してしまった。　など
➡医療現場の（もしも）if をサポート！

プライベートの「もしも」には・・・　団体割引等で、大きな割引率が適用されています！
＜普通傷害保険・医療保険など＞
普通傷害保険（約 68% 割引）・・仕事中もプライベートでもOK！
医療保険（1 年契約用）（約 65% 割引）・・疾病による入院や手術費用をしっかり補償します！
がん保険（1 年契約用）（約 65% 割引）・・がんによる入院や手術費用をしっかり補償します！
団体長期障害所得補償保険（30% 割引）・・ケガや病気で働けなくなった時の、所得減少分を補償します！
＊上記保険は任意に選択してご加入いただけます。
＊医療保険・がん保険は一年契約用です。
➡プライベートの（もしも）if をサポート！

このご案内は Willnext の概要をご紹介したものです。詳細は団体の代表者の方にお渡ししてある保険約款によります。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明」をよくお読みください。
ご不明な点などがある場合には、代理店までお問い合わせください。

Willnext
あなたを支える保険です

制度運営：一般社団法人日本看護学校協議会共済会
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
（担 当 課）医療・福祉法人部 法人第一課
〒102-8014 東京都千代田区三番町 6-4 ラ・メール三番町 9 階
TEL：03-3515-4143

資料請求・お問い合わせ先
代理店：㈱メディクプランニングオフィス
〒104-0033　東京都中央区新川 2-22-6 SJI ビル 2F
E-mail：willnext@medic-office.co.jp
0120-847861　携帯・PHS OK　9:00 ～ 17:00（土・日・祝日・年末年始を除く）
13-T-12345（平成 26 年 3 月作成）

◎医学書院の助産師向け書籍

マタニティ診断にもとづく
母性看護過程の授業設計
編集　青木康子
看護診断だけでなくマタニティ診断を用いて母性看護過程をどのように学生に教えるのか、授業設計と授業の展開を解説した書。母性看護学を担当する教員の必携書。
●B5　頁116　2014年　定価:本体3,200円+税　[ISBN 978-4-260-01934-7]

分娩介助学　第2版　進　純郎
正常分娩から異常分娩まで、そのメカニズムと介助のしかたを丁寧に解説。母子の安全・快適な出産を成就するために、分娩介助者に必要な知識と技術を網羅している。
●B5　頁352　2014年　定価:本体4,800円+税　[ISBN978-4-260-01886-9]

妊婦健診に一歩差がつく
産科超音波検査　谷垣伸治
超音波検査の基本手技や画像の判読法、観察のポイントなど、豊富な画像を用いて解説。妊婦・胎児の健康管理だけでなく、保健指導のツールとして役立てる能力を養う。
●B6　頁120　2014年　定価:本体2,200円+税　[ISBN978-4-260-01947-7]

実践 マタニティ診断　第3版
編集　青木康子
マタニティ・サイクルにある女性と新生児を対象にしたマタニティ診断の診断名・定義・診断指標を示した『マタニティ診断ガイドブック　第4版』に、観察ポイントやケア計画作成の解説を加えた実践書。
●B5　頁328　2014年　定価:本体3,800円+税　[ISBN978-4-260-01898-2]

医学書院　〒113-8719　東京都文京区本郷1-28-23　［販売部］　TEL 03-3817-5657　FAX 03-3815-7804
E-mail sd@igaku-shoin.co.jp　http: // www.igaku-shoin.co.jp　振替 00170-9-96693

「学生と共に創る助産師教育　～助産師学生の可能性を信じて～」

鳥取県立倉吉総合看護専門学校
助産学科　専任教員　　澤　田　　悠

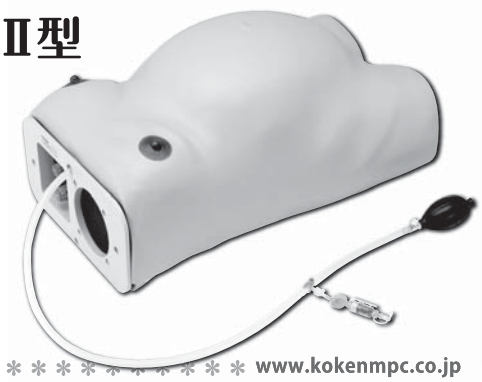
8年間の臨床経験後、助産師教育の現場で働き始め、2年目の夏を迎えました。臨床では院内助産システムの立ち上げに携わり、助産師として新たなやりがいを感じていましたが、助産師としての責務が増し実践能力が求められる度に、自分の知識や経験の不足を感じるようになりました。臨床での新人指導に悩んでいた頃、恩師から助産師教育の道を勧められました。新しい道に進むことへの不安もありましたが、教育について学ぶことは自分の助産観を再構築する契機となると期待し、決意しました。

現在勤務している鳥取県立倉吉総合看護専門学校は、昭和52年に 看護師3年課程・2年課程・保健師助産師合同課程の3学科で発足しました。 平成21年から保健師助産師合同課程が助産学科となり6年目となります。1学年16名の定員で年齢層も20歳から40歳代と幅広く、教育背景も様々です。学生は「助産師になりたい」という思いを胸に、1年間のハードなカリキュラムに臨みます。学内では知識や技術の助産実践能力の習得だけでなく、母子保健チームで協働する能力を養えるよう支援しています。

本校の特色として、地域母子保健における助産師の活動を強化するために、小学生・中学生・高校生を対象とした性教育に力を入れています。小学6年生に行う「命を大切にする教育」に学生は強い興味関心をもちます。小学生に自他の命の尊厳を体感してもらうことは並大抵の努力では伝わりません。意見が衝突し、何度も話し合い、やりなおすことも多々あります。その中で、学生は対象への効果的な指導方法や他者との協働について学びます。実際に小学生に教育を実施し、相手に思いが伝わった時、学生は大きな達成感と深い感動を覚えます。私は学生の思考を促す指導ができず、先輩教員に相談する毎日ですが、学生とともに創り上げる過程にやりがいを感じます。

対象者に個別のケアがあるように、学生1人1人の個性や求める助産師像も異なります。学生は今まで受けてきた「命を大切にする教育」に影響を受け、命の神秘性を感じ、助産師を志すきっかけとなっています。学生の「助産師になりたい」という思いを受け止め、共に学びあえる仲間と困難に向かっていける強さが持てるよう、私自身強い思いを持って指導にあたりたいと思います。

写真は、今年度の性教育演習後の写真です。今後も、専門職としての助産師の責務や魅力、学ぶ喜びを伝えられるよう助産師教育に取り組んでいきます。

2014年9月発売
妊婦腹部触診モデルⅡ型
LM-105　標準価格 ¥450,000(税別)
レオポルド4段触診、胎児心音の聴診の練習、指導ができる等身大のモデルです。
KOKEN 株式会社 高研
札幌営業所 TEL(011)221-5888 ／ 仙台営業所 TEL(022)218-9540
東京営業所 TEL(03)3816-3500 ／ 名古屋営業所 TEL(052)950-6580
大阪営業所 TEL(06)6304-4854 ／ 福岡営業所 TEL(092)263-5101
www.kokenmpc.co.jp


理事会報告

第７回理事会議事録

日時：平成 26 年 3 月 15 日（土）11：00 ～ 16：15
場所：本会事務所
出席理事：島田啓子、井村真澄、大石時子、我部山キヨ子、北川眞理子、倉本孝子、佐藤香代、高田昌代、村上明美
欠席理事：高橋順子
出席監事：熊澤美奈好、村上睦子
出席幹事：潮田千寿子、渡邊典子
書　　記：潮田千寿子
理事総数：10 名　　出席理事：9 名
監事総数：２名　　出席監事：2 名

議事次第
Ⅰ会長挨拶

Ⅱ報告事項
１）庶務・総務
①平成 25 年度地区長会議事録の承認
②平成 25 年度第 6 回理事会議事録の承認
２）会計
・決算報告締切
３）国際活動小委員会
・抄読会の準備中
・国際調査協力国に報告をする予定
４）組織強化小委員会
・教員ラダーの進捗状況
５）資格・専門能力委員会
・第 97 回助産師国家試験の検討結果
６）教育検討委員会
・3/6 に大学院の検討会を実施
大学院教育の現状と課題、高度な専門職育成の取組み、プログラム等について検討
７）生涯教育研修委員会
・アンケート調査結果
８）広報委員会
・ニュースレター NO.82 企画案
９）センター運営委員会
・シラバスを見直し、次年度に向けて精査している
・修了式
・センター長の報酬
10）その他
・国家試験の分析結果
・助産師教育に関連する資料の冊子

Ⅲ審議事項
１）平成 26 年度事業計画の承認
２）平成 26 年度収支予算案
①収支予算書（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日まで）
委員会再編成のための予算移動を微調整し、予算案を承認
②平成 26 年度収支予算書案
３）総会運営
４）50 周年記念事業
５）組織強化小委員会、資格・専門委員会、規程承認
６）全助協パンフレット　承認
７）組織強化委員会の新メンバー　承認
８）全助協ロゴマークの決定
９）広報委員会規程
10）社会貢献委員会
11）正会員退会、個人会員の入会の承認

Ⅳその他
１）助産師教育のビジョンに関する計画
２）助産実践能力認証（仮）会議の報告と執筆依頼
３）全助協で印刷領布した資料冊子
４）専門学校の申請が地方厚生局から都道府県になる
５）総会後の理事会日程

第 40 回全国助産師教育協議会全国研修会近畿地区のお知らせ

テ ー マ：学生の学習力　教員の教育力アップを目指して（仮）
開催日時：平成 27 年 2 月 28 日（土）～ 3 月 1 日（日）
場　　所：愛仁会看護助産専門学校　6 階ホール
　　大阪府高槻市古曽部町 1－3－33
担　　当：近畿地区（中部地区より変更）

第 11 回　ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会

The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015
（ICM APRC 2015）

テ ー マ：すべての妊産婦と赤ちゃんに助産師のケアを
開催日時：2015 年 7 月 20 日（月）～ 22 日（水）
場　　所：パシフィコ横浜
演題登録期間：2014 年 7 月 16 日（水）～ 12 月 24 日（水）

詳しくは、全国助産師教育協議会のホームページをご覧ください。

編集後記

今年の夏は、多くの地域が集中豪雨に見舞われました。被災されました方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

初夏から秋にかけては、多くの学校が助産実習を行っていたのではないでしょうか。学生たちの成長を、見守り支援してくださる臨床の助産師さんたちに感謝いたします。今年の 5 月には、本協議会は創立 50 周年を迎え、この歴史を築かれた諸先生方の歩みを振り返らせていただき、多大なご尽力と努力の賜物であることを強く認識いたしました。これからも、助産師が一丸となり、教育や人材育成に邁進していく意欲に掻き立てられました。今後も、皆様からのご意見やご要望、新鮮な情報をお知らせしていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

古川　洋子（滋賀県立大学）
中西　伸子（奈良県立医科大学）
西川みゆき（京都光華女子大学）
岡山　久代（滋賀医科大学）
佐藤　香代（福岡県立大学）

●助産師教育ニュースレター　第 83 号
2014 年 9 月 25 日
発行人　公益社団法人　全国助産師教育協議会
Japan Society of Midwifery Education（J.S.M.E）
会長　島田　啓子
〒 111-0054
東京都台東区鳥越 2-12-2　日本助産師会館 3 階
電話・FAX　０３－３８６６－３０１７
事務局在室曜日
火・金（10 時～ 17 時）
http://www.1.ocn.ne.jp/~zenjomid
E-mail　zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp